



TITLE:

日支經濟關係ノ真相(日支兩國民ノ反省ヲ促カス)

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 日支經濟關係ノ真相(日支兩國民ノ反省ヲ促カス). 經濟論叢
1917, 4(2): 239-269

ISSUE DATE:

1917-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127159>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號二第

卷四第

行發日一月二年六正大

論說

『一經濟學者ノ第一思想』ヲ讀ム……………	法學博士	河上肇
官業問題ニ就キテ(二)……………	法學博士	神戸正雄
體質廢頽問題(二)……………	法學博士	財部靜治
經濟心理學ノ組織的研究(二)……………		米田庄太郎
消費ニ關スル學說ノ發達(二)……………		瀧本誠一

時事問題

減債基金論……………	法學博士	小川郷太郎
日支經濟關係ノ真相……………	法學博士	戸田海市
關西商業會議所聯合經濟調查會事業概況……………	法學博士	神戸正雄

雜錄

經濟雜話(八)……………	法學博士	田島錦治
中世ニ於ケル賣買ノ擔保……………	文學博士	三浦周行
不換紙幣ノ價格ニ付テ河上博士ニ答フ……………	法學博士	戸田海市
米ノ卸賣價格ト小賣價格……………	法學士	河田嗣郎
植民國トシテノ丁抹ノ末路……………		山本美越乃

日支經濟關係ノ真相

(日支兩國國民ノ反省ヲ促カス)

戸 田 海 市

支那ニ對スル政治上經濟上ノ根本方針ニ付ハ曾テ明治四十三年ノ初メ雜誌太陽ニ於テ見テ公ケニシタガ歐洲戰爭ニ由テ世界ノ形勢ノ一變セントシツツアルト同時ニ、日支兩國ノ關係カ甚タ憂フヘキ狀況ヲ呈シツツアル今日ニ於テ適當ナル對支政策ヲ確立スルコトハ、戰時及戰後ノ經營ヨリ見テ最も重大ノ問題テアルカラ、茲ニ再ヒ同趣旨ノ見テ公ケニスルコトトシタ

一 戰後經營ノ大方針

今次ノ歐洲戰爭ハ我國ヲシテ名實共ニ世界ノ強國タル地位ニ進マシメタ。戰前ニハ一面對外債務ノ關係ヨリ正貨流出シテ經濟財政ノ基礎ヲ動搖セシメタガ、此戰爭ノ爲メ貿易狀態カ一變シテ經濟上ノ不安ヨリ國民ヲ救ヒ出シ、他面ニ此戰爭ハ日露間ノ政治的關係ヲ改善シテ國防上ノ不安ヲ除キ、更ニ最近經濟同盟加入ニ由テ聯合諸國トノ政治上經濟上ノ關係ヲ有利ニ確定シ、以テ今後ノ大發展ノ爲メニ坦々タル大道ヲ建キ上ケタ。故ニ此際適當ナル戰後經營ノ方針ヲ立テルナラハ、我國ノ前途ハ實ニ多望ト云フヘキテアルガ、併シ一面カラ見レハ、我國民ハ今日コソ實ニ盛衰興亡ノ岐路ニ立テ居ルノテアル。戰前ニ我國ハ強國ト稱シ一等國ト誇ツテ居タガ、實力ノ貧弱ナ爲メ自由意思ニ由テ行動スルノ餘裕ナク、世界列強ノ競爭壓迫ニ對シテ消極的ノ自衛ニ全力ヲ傾倒

シテ居タノテアツテ、彼ノ日清日露ノ兩戰役及其結果トシテノ大陸發展ノ如キモ、一見スレハ積極の行動ノ如クテアルガ、其實ハ外界ノ勢力ニ壓迫セラレテ己ムヲ得ヌ國運ヲ賭シテ行フタ消極の自衛策ニ外ナラヌノテアル。左レハ從來我國民ノ對外思想カ如何ニモ偏狹ナ利己的國家主義ノ色彩ヲ帶ヒ、其間ニ溫カキ同情ノ流露ヲ認メ難イト云フ弊カアツタトハ云ヘ、這ハ實力ノ微弱ナルコトヲ自覺セル國民カ自衛ニ汲々タリシ結果テアツテ、其思想ノ根底ニハ嚴肅ナル正當防衛ノ觀念カ潜ンテ居リ、決シテ實力ノ餘リアルヲ自覺セル者カ之ヲ濫用セントシタノテハナイ

此ノ如ク我國ハ從來自己ノ意思ニ由テ目的ヲ定メ行動ヲ撰ムノ自由ヲ殆ント有タナカツタガ、之ト同時ニ從來ノ我カ對外行動モ部分的ニハ過誤カアツタニ相違ナイガ、大體ニ於テ嚴肅ナル國民生存權ノ主張ト云フ正道ヲ外レルコトカ出來ス、之カ爲メ内ニ在テハ國民ノ元氣ヲ鼓舞シ、世界列國ヨリハ同情ト援助トヲ受ケ、以テ十九世紀ノ世界歴史ニ於テ日本民族ノ存在カ承認セラルルニ至ツタノテアル。然ルニ今次ノ歐洲戰爭ニ由テ我國ハ政治上經濟上立國ノ基礎カ安固トナツタ爲メ、茲ニ初メテ列國ニ對シテ自カラ目的ヲ定メ行動ヲ決スルノ餘力ヲ生シタガ、此ノ如キ餘力ヲ生シタコトハ即チ我國カ正道ニ進ムト邪道ニ踏ミ入ルトノ自由ヲ得タノテアツテ、戰後經營ノ大眼目ハ實ニ國民ヲシテ正道ニ進マシムルコトテアル。開戰以來朝野トモニ戰後經營ノ大問題ニ頭ヲ腦マシ、其研究劃策ハ周到精細ト云フヲ得ナイテハナイガ、憾ムラクハ大眼目ヲ逸シテ徒ラニ枝葉ニ熱スルノ嫌ナキヲ得ナイ。今後我國民カ世界ノ大國民タラントスレハ、大國民ニ相當スル識見ト度量トヲ以テ立ツコトカ何ヨリモ必要テアル。今次ノ歐洲戰爭ニ由テ吾々ハ獨逸カ驚クヘキ強國

テアルコトヲ充分ニ知り得タガ、之ト同時ニ獨逸ハ智慧カ餘リアツテ大國民タルノ識見カ足ラス、勇氣ハ充實シテ居ルガ大國民タルノ度量ニ缺ケテ居ルコトヲ痛切ニ感セサルヲ得ナイ。是レ他ニ原因モアルテアラウガ、一ハ多年列國ニ蹂躪セラレタ爲メニ對外思想ノ狹偏トナツタ獨逸國民カ、帝國建設以來實力ヲ増進シ、從ツテ其國力ヲ濫用スルコトノ可能トナツタ時代ニ及ンテモ尙ホ國民思想ヲ正道ニ誘クコトヲ忘レ、只管ラ偏狹ナル勢力主義ノ鼓吹ニ努メテ、大國民タルノ教養訓練ヲ爲スコトヲ怠ツタ爲メテアル。獨逸ニ此ノ如キ根本的ノ缺點アルコトハ、實ニ獨逸ヲシテ戰闘ニハ勝ツモ戰争ニ敗ルルノ運命ヲ荷ハシメルノテアル。今後我國ノ強勇ヲ獨逸以上ニ達スルコトカアツテモ、若シ我國民カ今ニシテ大國民タルニ必要ナル識見度量ヲ以テ國是ヲ立テ、之ニ由テ國民ニ教養訓練ヲ與フルコトヲ怠ツタナラハ、地球ノ大部分カ白人ノ支配ニ屬スル今ノ世ニ於テ、獨リ世界ノ強國タル地位ヲ保チ難キノミナラス、東亞ノ強國タル地位ヲ保ツコトモ困難トナルテアラウ

二 日支關係ノ現狀

日支兩國ノ政治上經濟上ノ關係ヲ適當ニ定メルコトハ双方ニ取ツテ死活問題ト云フヘキ重大事件ヲアツテ、我カ戰後經營ノ大方針ヲ立テルニ付テモ、必ラス此問題ヲ適當ニ解決スルカ如キ方針ヲ探ラチハナラス。由來此兩國ハ政治上ニモ經濟上ニモ互ニ一致提携スヘキ運命ヲ有スルニ係ハラス、近來兩國ノ關係ハ日ニ益險惡ニ赴キ、特ニ支那ニ於ケル排日思想、四百餘州ノ全體ニ普及シテ頑強ナル民族思想トナリツツアルコトハ、恰モ米墨兩國ノ關係ノ如クテアル。米國ハ曾テ墨

國ヨリ廣大ナル地域ヲ分割シタガ、世評ニ由レハ其後漸々墨國ヨリ歐洲ノ勢力ヲ排除スルト同時ニ自カラ之ヲ支配セントシ、之カ爲メニハ表面裏面ヨリ有ユル手段ヲ講シテ居ルヤウテアル。現ニ是マテ墨國ニ於テ革命ヲ起ス者ハ何レモ米國ヨリ資金ト兵器トノ供給ヲ受ケテ運動ヲ起シタト云ハレテ居ルガ、而モ革命カ成功シテ一旦ヒ政權ヲ握ルニ至レハ必ラス激烈ナル排米主義ヲ實行スル。是レ墨國ニ於テ排米主義ハ既ニ頑強ナル民族の思想トナレルカ爲メ、政治ノ局ニ當ル者カ苟クモ其地位ヲ保タントスレハ排米主義ヲ主張セサルヲ得サルノミナラス、米國ヨリ資金ト兵器トヲ供給セラレテ煽動ヲ受ケタ革命者コソ最モ能ク米國ノ野心ヲ知レル故、苟クモ革命者ニシテ愛國心アリ民族の自覺カアルナラハ、衷心ヨリ排米主義者トナラサルヲ得ナイカラテアル從來我國カ支那ニ對シテ勢力ヲ張ラントシタ所以ハ、支那ヲ保全シテ自國ノ獨立ヲ安固ナラシムル爲メテアツテ、米ノ墨ニ對スル積極的行動トハ頗フル精神ヲ異ニスル所アリトハ云ヘ、實際ノ手段ニ至テハ頗フル相類スル點カ多ク、從ツテ又支那ニ於ケル排日思想ノ普及ハ墨國ニ於ケル排米思想ノ如クナリツツアル。否ナ墨國民ハ如何ナル點ヨリ見テモ米國ノ優勝者タルコトヲ充分ニ承認セサルヲ得サルニ反シ、中華國民ヲ以テ自ラ任スル支那人ハ日本ヲ以テ小島國トシ、日本人ヲ以テ成リ上リ者ト見ルノ傾カ強キ故、其排日思想ハ憤怒ニ加フルニ侮蔑ヲ以テセル惡性ノモノトナツテ居ル。世間或ハ支那ニ於テ南方派文治派カ勢力ヲ得ルニ至レハ日支親善ノ實ヲ舉クルコト難カラスト考ヘル者モ少ナクナイガ、我國ノ對支態度ニシテ根本ヨリ一變セサル上ハ、新智識ヲ有シテ民族のニ覺醒シツツアル南方人コソ最モ頑強ナ排日主義者トナルノテアル。智識ノ程

度低クシテ民族ノ利害休戚ニ比較的冷淡ナル貴族の武斷派ノ如キハ、自己ノ地位ヲ保ツニ必要トアレハ手ヲ覆スカ如ク親日主義ニ變スルコトモアリ得ルノデアルガ、覺醒セル南方派即チ民衆のニシテ又民族のナル南方派ニハ容易ニ此ノ如キ事柄ヲ期待シ得ナイノデアル

本來一致提携スヘキ兩國ノ關係ヲ此ノ如ク險惡ナラシメタ責任ハ双方カ之ヲ負ハテハナラヌ。兩國ノ關係ヲ決定スルニ付テ我國カ多ク能動のテアツタカラトテ、我國ノミヲ責メルコトハ出來ナイ。前ニモ述ヘシ如ク日清日露ノ兩戰役及之ニ伴フテ起リシ兩國ノ關係ハ、列強就中露國ノ東方侵略ニ對スル自衛ノ爲メ己ムヲ得スシテ決定セラレタモノデアル。只タ我國ハ東洋ノ先覺者トシテ賢明ナル國是ヲ立ツルノ能力アルニ反シ、支那ニハ此能力カ缺ケテ居ル故、我國ハ大ニ自カラ責メテハナラヌ。以前我國力ノ微弱ナリシ時代ニハ、先進諸國ノ東方侵略ニ對スル自衛ニ熱中シテ手段ヲ考慮スルノ遑ヲ有タナカツタトモ云ヘルガ、我國ノ地位ノ向上シタ今日以後ニ於テハ支那ニ對スル態度ヲ最モ慎重ニ決定セネハナラヌ、而シテ之ヲ決定スルニ付キ何ヨリモ大切ナルハ大國民タルノ識見ト度量トヲ以テスルコトデアル。從來ノ我カ對支策ハ頗フル嚴酷ナ強壓のナモノテアツタ上ニ、新聞雜誌等ニ現ハルル我國民ノ輿論ヲ見テモ、同情ヲ以テ支那ヲ理解セントスルノ意思カ甚タ缺ケテ居リ、支那ヲ尊重スルノ意思ニ至テハ絕無ト云フモ可ナル有様デアツテ、無遠慮ニ支那ノ事物ヲ批評シ、又妄リニ支那ノ内事ニ干涉シテ之ヲ屬國扱ヒニスル。加之支那ノ民衆カ日本人ノ何タルヤノ觀念ヲ得ルニハ、支那ニ入り込メル日本人ト日本商品トノ觀察ニ由ルコトカ多イノデアルガ、支那在留ノ日本人就中内地ニ徘徊シテ地方民ト接觸スル所ノ邦人ノ中ニハ

最モ嫌惡スヘキ分子カ少ナクナイト同時ニ、日本商品ニハ欺瞞的ナ粗製濫造ノ多イコトモ爭ハレナイ事實テアル。我政府ヤ輿論ヤ個人ノ支那ニ對スル行動カ此ノ如クテアル上ハ、支那ニ於テ頑強ナル排日思想カ起ルノハ當然ト云ハチハナラヌ

支那ニ排日思想ヲ發生セシメタ責任カ何レニ在ルヤノ論ハ暫ラク之ヲ舍キ、此排日思想タルヤ獨リ我國ヲ毀クルニ止マラス、一步々々支那ヲ自滅ノ危機ニ誘キツ、アル。從來支那ハ排日ニ熱中シテ手段ヲ撰ムノ遑ナク、或ハ英ヲ誘ヒ、或ハ獨ヲ招キ、或ハ米ト結ヒ、特ニ經濟上ヨリ支那ノ分割ヲ招クカ如キ重大ノ特權ヲ此等ノ強國ニ與ヘテ其援助ヲ求メルト云フ自殺的態度ヲ採リツツアル。支那ノ保全ハ我國存立ノ必要條件テアツテ、假令ヘ之ヲ分割スハ我國カ最モ有利ノ部分ヲ占領シ得テモ尙我國ハ其分割ニ反對セサルヲ得ナイノテアルガ、併シ支那ニシテ如上ノ自殺的態度ヲ採ツテ顧サルトキハ、我國モ已ムヲ得スシテ有害ナル分割ヲ實行セチハナラヌコトナル。實ニ兩國ノ爲メニ是レホド悲シムヘク且ツ馬鹿ゲタコトハナイノテアルガ、兩國ヲシテ此ノ如キ悲慘ノ運命ニ陷ラシムルコトヲ避クルノ責任ハ、先覺者タル我國カ一層多ク之ヲ負擔セチハナラヌ。我國民ニシテ徒ラニ先進國ヲ恐レサルト同時ニ、妄リニ後進國ヲ侮ラナイト云フ大國民ノ識見度量カアルナラハ、兩國ノ關係ヲ改善スルコトハ容易ノ業テアル。何トナレハ兩國ハ有形ニモ無形ニモ自然ニ調和スヘキ關係ニ立ツテ居ルノテアツテ、人爲ニ由リ辛フシテ調和ヲ保チ得ルカ如キ關係テナイカラテアル。

曾テ日露戰爭ノ際ニハ支那ヲ初メトシテ東洋南洋ノ諸民族ハ我國ヲ見ルニ救濟主ヲ以テシ、東方

ノ盟主トシテ仰カントスルノ風カアツタガ、近來ハ獨リ支那ニ頑強ナ排日思想カ勃興シタノミナ
ラス、印度ヤ南洋ニ於テハ我國ヲ以テ東方ノ暴君ナリトスルノ思想カ次第ニ強マリ、日本ニ征服
セラレルヨリモ寧ロ白人ノ支配ト保護トヲ受クルニ如カスト云フカ如キ思想カ勢力ヲ得ントシツ
ツアル。是レ汎ク此方面ニ於テ經濟上ノ實權ヲ握レル支那移住民ノ思想ノ影響ニモ由ルテアラウ
ガ、結局ハ我國民カ未タ小島國の根性ヲ脱セス、政府モ輿論モ個人モ妄リニ弱國ヲ侮リ、又卑近ノ
利害ニ汲々トシテ遠大ノ思慮ヲ缺ク爲メ、此等ノ後進民族ハ日本ノ恐ルヘク賤シムヘキ所以ヲ知
ツテ、其ノ親シムヘキ所以ヲ知ルコトカ出來ナイカラテアル

三 國家存立上兩國ノ根本的一致

個人間ニ於ケルト同シク國際間ニ於テモ、相隣接セル者ノ間ニハ利害ノ衝突カ起リ易イ、從ツテ
近攻遠交策ハ獨リ支那ノ慣用手段テアルトハ云ハレナイガ、併シ日支兩國ノ間ニ起ル所ノ衝突ハ
何レモ卑近ナ小利害ニ關スルモノテアリ、大局ニ於テハ此兩國ホド利害ノ一致スル例ハ他ニ見ラ
レナイノテアル。凡ソ世界列國ノ生存競爭ハ歸スル所各自ノ種族ト其文化トヲ維持發展スル爲メ
テアツテ、種族ト文化トヲ異ニスル國民ノ間ニ同盟協約ノ如キ親善關係カ成立シテモ、其ハ巧利
的ナ一時ノ現象テアリ、眞ノ和衷協同ハ同種同文ノ國民ノ間テナクテハ成立シ難イ。日支兩國ハ
種々ノ點ニ於テ著シキ差異ヲ示ストハ云ヘ、根本ニ於テハ同種同文ト稱シテ可ナルホドニ重要ノ
共通性ヲ有シ、其ノ相違スル點ヲ有スルコトハ互ニ相依リ相扶クルノ關係ヲ濃厚ナラシムル性質

ノモノテアツテ、決シテ相反撥セシムル性質ノモノテハナイ。從來我國民カ歐米ノ文物ヲ崇拜シテ自ラ賤シメルノ風カアツタ爲メ、自國ト相類シテ一層低級ナリト認ムル所ノ支那人ト其文化トヲ一概ニ輕侮スルコトトナツタガ、我國民ニシテ妄リニ一般後進國ヲ侮ラス、又妄リニ歐米ノ文物ニ眩惑セシテ深ク反省シ自重スルナラハ、必ラスヤ支那人ト其文化トニ對シテ最モ深キ同情ト理解トヲ生シ、衷心ヨリ同種同文ノ運命ノ爲メ互ニ提携セントスル所ノ精神の共同カ起ラチハナラヌ筈テアル

同種同文ノ國民ノ間ニ於テモ、一方カ政治上ノ獨立ヲ保ツカ爲メニ他方ノ獨立ヲ認ムルノ必要ヲ感セサルトキハ、其間ニ激烈ナル衝突ヲ生スルノ已ムヲ得サル場合モアルガ、日支兩國ノ場合ニ於テハ双方トモ自己ノ存立ヲ保ツカ爲メニ相手方ノ獨立保全ヲ必要トスルノテアル。曾テ我國ニ支那分割論又ハ併呑論モアツタガ、今日此ノ如キ時代後レノ思想ニハ最早ヤ勢力ハナイ。凡ソ各國ノ文明ハ民衆ノ覺醒向上ト相伴フテ進ムモノテアルガ、民衆ノ覺醒ハ鞏固ナル民族思想ノ勃興ヲ來タスモノテアル。左レハ英國ノ大ヲ以テシテ貧弱ナル愛蘭ノ自主運動ノ勃興ヲ抑ヘ難ク、獨逸ノ強ヲ以テシテ波蘭領ニ於ケル民族の勢力ノ増進ヲ如何トモシ難キ有様テアル。只タ英カ愛蘭ヲ併セ、獨カ波蘭ヲ領スルハ自國ノ國防ノ安固ノ爲メ已ムヲ得サル處置テアル如ク、我國モ南方臺灣ヲ領有シ、西北方ニ朝鮮ヲ併合シ、滿蒙ニ對シテ特種ノ優越權ヲ保有スルコトハ已ムヲ得ナイ所テアルガ、更ニ進ンテ大陸ニ政權ヲ張ルトキハ我國ノ衰亡ヲ來ササルヲ得ナイ。我國カ支那ヲ併合スルトキハ、假令ヘ今日ニ幾倍スルノ國力ヲ有スルモ、支那ノ民族の反抗ヲ抑ヘテ秩序ヲ

維持スル爲メニ國力ヲ消耗セサルヲ得ナイヲアラウガ、實際我國ガ支那ヲ併呑セントスレハ勢力ノ均衡上諸強國ハ決シテ之ヲ傍觀セス、各自之ヲ分割スルコトトナルノテアツテ、此場合ニ果シテ我國カ最モ有利ナル部分ヲ割取シ得ヘキヤモ疑問テアル。列國カ此ノ如ク支那ヲ分割シテ太平洋發展ノ根據地ヲ此所ニ建キ上ケルトキハ、我國防ノ危險ニ陷ルハ勿論ノコト、經濟上ニ於テモ我國ノ發展ハ阻止セラレサルヲ得ナイ。後ニ論スルカ如ク支那ヲ保全シテ置ケハ、我國ハ全支那ノ大市場ニ歐米ト競争シテ充分ニ發展シ得ルニ反シ、之ヲ分割シテ其一部分ヲ占領スルコトトナレハ、如何ニ其地域カ經濟上有利ノモノテアツテモ、我國ノ發展ハ僅カニ其區域内ニ限ラレ、支那保全ノ場合ノ如ク全支那ニ亘ツテ自由ノ大發展ヲ爲スヲ得ナイカラテアル

此ノ如ク支那ヲ保全スルコトハ我國存立ノ必要條件テアルガ、世界列國ノ中支那保全ヲ以テ眞ニ自國ノ存立條件トスルモノハ日本ノ外ニハナイ。故ニ支那ニシテ列強ノ侵略ニ對シ獨立ヲ保ツノ實力カ備ハラサル限りハ日本ニ依頼スルノ外ナク、從ツテ又日本ノ強大トナルコトハ支那自身ノ利益テアル。近來支那ノ輿論ハ米國ヲ以テ最モ信頼スヘキ友國ト認メルヤウテアツテ、吾々モ亦米國カ支那ニ對シ眞ノ友情ヲ注クコトヲ希望スルノテアルガ、併シ支那カ米國ヲ信シテ其國運ヲ之ニ託スルト同時ニ、日本ヲ疎シテ其正當ノ利益ヲ毀ケントスルナラハ、吾人ハ支那ニ對シテ嚴肅ナル警告ヲ與ヘサルヲ得ナイ。地球ヲ反對面ニ位スル米國ハ決シテ支那ノ保全ヲ以テ自國ノ存立條件トスルモノテハナイ。否ナ米支兩國ハ種族及文化ノ上ヨリシテ根本的ニ相兩立セサルモノナルコトハ、米國カ其ノ嚴酷ナル支那移民排斥法ニ由テ夙ニ世界ニ宣言スル所テアツテ、米國

ノ支那ニ對スル此態度ハ他ノ白人諸國ニ於ケル有色人排斥熱ヲ煽揚スルニ付キ大ニ與ツテ力アリト云フヘキテアル。今日米國ノ支那ニ友情ヲ表セントスル所以ハ主トシテ經濟上ノ利益ヲ得、又間接ニ之ニ由テ太平洋方面ニ勢力ヲ張ラントスル爲メテアルガ、殆ント無限ノ天然資源ヲ包藏シテ、鐵銅綿花ヲ初メ重要原料ノ生産高カ全世界ノ五割六割ノ大ニ達スル所ノ米國ハ、決シテ今後大ニ開發セラルヘキ支那ノ原料ヲ多ク需用スルモノテナク、又支那ノ最モ必要トスル諸般ノ工業品ヲ最モ低廉ニ供給スルモノテハナイ。之ヲ需用シ之ヲ供給スルコトヲ以テ自國ノ維持ニ必要トスルモノハ獨リ日本アルノミテアル。

米國ノ對支政策ハ常ニ門戶開放機會均等ヲ標榜スルノテアルガ、其實從來米國品ノ支那市場ニ侵入スルニハ「ダンピング」ノ方法ニ由ルコトカ多カツタ。米國自身ハ他國品ノ自國市場ニ對スル「ダンピング」ヲ不正競爭ト認メ、之ヲ防遏スル爲メ無遠慮ニ嚴酷ナル稅關取締リヲ行ヒ乍ラ、支那市場ヲ初メ諸外國ニ自國品ヲ輸出スル場合ニハ「ダンピング」ノ手段ヲ慣用スル。是レ米國ノ主ナル産業カ獨占ノ合同組織トナレル結果テアツテ、米國カ國家トシテ他國ヲ害セントスルノ意思カアルノテハナイトシテモ、此ノ如キ商略ヲ慣用スル米國カ支那市場ニ關シテ切リニ門戶開放機會均等ヲ主張スルハ一ノ喜劇ト云ハチハナラス。又支那ハ其ノ最モ缺乏セル資本ヲ得ルコトニ付テ今後大ニ米國ニ依賴スルノ必要ヲ認メツツアル。以前ト異ツテ我國モ今後ハ支那ニ對シ相當ニ資金ヲ供給スルノ能力ヲ生シタガ、併シ支那ノ富源ヲ開發シテ其經濟財政ヲ維持スル爲メニハ我國ノ資金ハ未タ不充分ナモノテアル故、米國ヲ初メ諸外國ノ投資ニシテ經濟的ニ支那ヲ分割スル

カ如キモノテナク、眞ニ支那ノ遠大ノ利益トナル性質ノモノテアルナラハ、我國ハ大ニ其投資ヲ歡迎スル。併シ支那ハ戰前ニ於ケル歐洲ノ投資ノ如ク、戰後ニ於ケル米國ノ投資ニ大ナル望ヲ囑スルトキハ失望スルコトトナルテアラウ。何トナレハ此戰爭ニ由テ米國ノ資力ハ頗フル増加シタトハ云ヘ、米國ハ尙ホ國內ニ於テ開發スヘキ富源多ク開拓スヘキ市場廣キ故、到底戰前ニ於ケル英國ノ如ク盛ンニ海外投資ヲ爲スノ餘裕ハナイ。加之米國ハ利害關係ノ最モ密接ナル中米及南米ニ對シ、今後ハ歐洲ニ代ツテ多大ノ投資ヲ爲スノ必要ヲ感スルノミナラス、戰後ニ於テモ英國ヲ初メ歐洲強國ハ戰爭ニ由ル荒廢ノ修復其他ノ戰後經營ノ爲メ莫大ノ資本ヲ必要トスルヨリ其金利モ依然トシテ高ク、之カ爲メ米國ノ資本家ハ歐洲一等國ニ對シテ投資スルコトヲ安全且ツ有利トスル場合カ多イカラテアル。

四 經濟上日支兩國ノ根本的一致

(上)

國際間ノ一致協力ヲ保ツ爲メニハ獨リ一般文化及政治ノ上ニ於テ根本的ニ利害ノ一致スルコトヲ必要トスルノミナラス、經濟上ニモ其一致ノ存スルコトヲ必要トスル。今マ日支兩國ノ經濟關係ヲ見ルニ、双方トモニ他ノ諸國ニ依頼スルヨリモ相互ノ間ニ依頼スルノ程度カ最モ強カルヘキ地位ニ立ツテ居ル。固ヨリ其間ニ全然利害ノ衝突カナイテハナイガ、其衝突タル何レモ小利害ニ關スルモノテアツテ、又多クノ場合ニハ避ケ得ヘキ性質ノモノテアル。國土ノ狹小ナル我國カ支那

ヨリ原料ヲ仰キ、又支那ニ生産物ヲ賣ルノ必要大ナルハ多言ヲ要シナイガ、一面ニ支那モ亦我國ヲ以テ最大ノ需用者供給者トセテハナラス。支那ノ經濟ヲ振興スルニハ何ヨリモ先ツ其天然ノ富源ヲ開發スルコトヲ必要トスルガ、之ヲ開發スルノ前提トシテハ最モ有利ナル販路ヲ附近ニ見出タスコトヲ要スル。然ルニ前ニ述ヘシ如ク米國カ支那ノ原料ニ對シテ重要ナル市場トナリ得サルノミナラス、此種ノ貨物ハ運賃ヲ要スルコト大ナルカ爲メ、歐洲諸國モ亦之ニ對シテ有利ノ市場トナルコトハ困難テアル。特ニ戰後歐洲強國ハ其廣大ナル屬領ノ富源ヲ開發利用シ、成ルヘク其經濟ヲ自給自足のナラシムルコトヲ國是ト爲サントシツツアル故、支那ノ原料ヲ盛ンニ需用スルコトハ困難テアル。之ニ反シ我國ノ工業ハ此戰爭ニ由テ面目ヲ一新スルホドノ進歩ヲ爲シタ爲メ原料ノ缺乏ヲ感スルコトカ益甚シクナツタ。故ニ今後支那ノ原料ハ我國ニ於テ最モ有利ナル販路ヲ見出スコトトナルノテアル

更ニ支那ノ需用スル所ノ工業品ニ付テ見ルニ、技術ノ進歩シ且ツ生活ノ向上セル歐米ノ生産物ハ購買力ノ小ナル支那人ニ取ツテハ餘リニ高價不經濟テアリ、我國ノ生産物カ最モ能ク支那ノ生活程度ニ適合スル。此事ハ我商品カ支那市場ニ歐米品ト競争シテ年々優勢トナリツツアルヲ見テモ明カテアル。加之我國ト支那トハ共ニ歐米ト全ク異レル特有ノ工業品ヲ生産消費シツツアルガ、元來我國ノ日用品ハ酒味噌醬油ヲ初メ家具什器被服等ニ至ルマテ、多クハ其根源ヲ支那ニ發シテ年所ヲ經ルニ從ヒ次第ニ變化ヲ呈スルニ至ツタノテアル。此特有産業ノ方面ニ於テ我國ハ未タ科學ヤ機械ヲ應用シテ之ヲ現代化スルニ至ラナイガ、今後ハ是非トモ此方面ニ産業革命ヲ行ハチハ

ナラヌト同時ニ、我國民ノ能力ハ之ヲ行ヒ得サルカ如ク貧弱テハナイ。然ルニ之ヲ行フニハ事業ノ規模ヲ大ニシテ大量生産ヲ爲スコトヲ必要トシ、之カ爲メニハ日支兩國ノ需用ニ適合セシムルノ方針ヲ探リ、其生産物ニ對シテ日支共通ノ大市場ヲ得セシムルコトヲ必要トスル。此方針ニ由テ我産業ノ革新カ行ハレタナラハ、支那ハ歐米ノ供給シ得サル日用品ヲ我國ヨリ廉價ニ仰クノ利益ヲ得ルニ至ルテアラウ

(中)

先進國ノ經濟カ十九世紀ニ於テ驚クヘキ進歩ヲ爲シタ主因ハ衣食住ノ日用品生産ニ付テ産業革命ヲ行フタコトテアル。産業革命ナルモノハ通例技術上ノ發明改良ニ由リ、在來ノ手工的又ハ家内工業的ナル小規模ノ經營ヨリ工場的ナル大規模ノ經營ニ移ルコトテアツテ、之ヲ行フニハ一面國民カ技術上ノ發明改良ヲ爲スノ能力ヲ有スルコトヲ要シ、他面ニハ大規模ノ經營ニ由ル大量生産物ニ對シテ廣大ナル市場ノ存在スルコトヲ必要トスル。幸ニシテ白人諸國民ハ互ニ相類似セル生活ヲ營メルカ爲メ、一國ニ生産消費セラルル日用品ハ通例其儘他國ノ需用ニモ適合スル故、其生産ノ規模ヲ大ニシテ大量生産ヲ行フコトカ割合ニ容易テアル。然ルニ我國民ハ古來歐米人ト非常ニ異レル特別ノ生活慣習ヲ有シ、其ノ大ナル部分ハ近キ將來ニ於テ之ヲ歐米ト同一ノモノニ變化シ難イ。特ニ此特有ノ生活慣習ハ東洋特有ノ氣候風土ニ關係ヲ保ツテ自然ニ發達シタモノテアルカラ、之ヲ歐米式ニ改造スルコトハ甚タ困難テアル。既ニ此事カ困難ナリトスレハ、我國ハ單ニ歐米ノ技術ヲ模倣シテ歐米式ノ貨物ヲ生産スルノ能力ヲ養フトモ、之ニ由テ國民ノ日常生活ニ根

本的ノ革命ヲ加ヘテ之ヲ現代化スルコトハ出來ナイ。是レ我國ノ經濟ヲ進歩セシムルニハ第一ニ歐米ノ技術ヲ直寫スル以上ニ獨立ノ發明改良ヲ行フノ必要アル所以テアル。我國民ノ自然科學の技術的能力ニ關シテハ種々ノ意見モアルガ、予輩ノ見ル所ニ由レハ我國民ハ必シモ此能力カ貧弱テハナイ。只タ從來ノ國民教育ニ於テ自然科學カ眞ノ基礎的教育トシテ重キヲ爲サス、極メテ表面的ノモノトセラレテ居タ爲メニ國民全體ノ自然科學の趣味ト能力トカ充分ニ發達スルヲ得ナカッタ。故ニ戰後經營ノ重要項目トシテ獨リ特別ノ理化學研究所ノ設立ヤ技術上ノ專門教育機關ノ新設擴張ヲ企ツルニ止マラス、初等中等ノ國民教育ニ於ケル自然科學教育ヲ根本のニ革新スルノ大計畫ヲ立テテハナラスノテアル

我國民カ日用品ノ生産ニ付テ產業革命ヲ行フニ足ルノ發明改良ヲ爲スモ、之ヲ濟經のニ實行スル爲メニハ其生産ニ對スル大市場ヲ必要トシ、從ツテ單ニ國內ノ需用ノミニ適合スルカ如キ生産ヲ行フコトハ多クノ場合ニ不利益トナル。然ルニ我特有生産物ヲ以テ汎ク歐米ノ市場ニ向フコトハ不能テアリ、少クトモ近キ將來ニ於テハ生活慣習ノ最モ接近セル支那ノ大市場ニ販路ヲ求メテハナラス。而シテ支那ニ販路ヲ求メントスレハ支那民族ノ固有ノ生活慣習ヲ理解シテ成ルヘク之ニ適合セシメネハナラス。此目的ヲ達スルカ爲メニハ支那人ヲ誘イテ日本ノ趣味ヤ風習ニ接近セシメルコトモ必要テアルガ、同時ニ日本ノ趣味ヤ風俗ヲモ支那ニ接近セシメルコトカ必要テアツテ、之ヲ怠ルトキハ到底我日用品ヲシテ同時ニ支那ノ日用品タラシムルヲ得ナイ。政治上社會上ニ日支提携スルコトニ由テ我國ノ地位ヲ高メントスレハ、從來ノ如ク妄リニ歐米ヲ貴ンテ支那ヲ侮ツ

テハナラヌノテアルガ、經濟上ニ於テモ之ト同シク産業革命ヲ行フテ吾々ノ日常生活ヲ根本的ニ改造セントスレハ、是非トモ支那ノ趣味風習ヲ理解シテ之ニ共鳴スルコトカ出來ナクテハナラヌ。又一面ニ白人ト生活慣習ヲ異ニスル所ノ支那モ、白人ノ力ニ依頼シテ自己ノ産業革命ヲ行フコトハ不能テアリ、是非トモ物質生活ノ根本ニ於テ一致スル所ノ日本ノ力ニ依頼セネハナラヌ。是レ實ニ日支兩國カ經濟上根本ヨリ利害一致シテ相離ルルヲ得サル關係ニ立ツ所以テアル。日本モ大ナル東洋ノ一部分テアツテ衣食住ノ慣習ト技術トヲ亞細亞大陸ヨリ輸入シ、之ニ或程度ノ變化ヲ加ヘテ特有ノ生活ヲ造リ出シタノテアル。故ニ物質生活ノ改造ニ付テハ特ニ此方面ニ大ナル進歩ヲ爲シタ歐米ノ長所ヲ採用スルノ必要ナルハ勿論テアルガ、併シ其改造ニ付テ徒ラニ淺薄ナル模倣ニ走ラス、深ク反省シテ自己ノ根本的需用ヲ充タス如ク努力スルトキハ、其努力ノ結果ハ自然ニ東洋全般ノ需用ニモ適合スルコトトナルノテアル。根本ヨリ東洋ト融合シ得サル白人ハ到底東洋人ノ生活ヲ根本ヨリ改造スルノ任務ヲ行フコトハ出來ナイ。此事ハ物質生活ニ於ケルト同シク精神生活ニ於テモ眞理テアル

(下)

日支兩國カ經濟上相衝突シ、又一方ノ必要トスルモノヲ他方カ充分ニ供給シ得サル場合モ固ヨリ少ナクナイガ、併シ此等ノ事柄ハ何レモ回避シ又ハ補足スルコトニ由テ双方ノ利害ノ調和ヲ破ルコトナク、寧ロ之ニ由テ双方ノ利益ヲ増進シ得ヘキ性質ノモノテアル。先ツ兩國カ經濟上ニ衝突スル重要ノ場合ニ付テ見ルニ、第一兩國カ同種ノ貨物ヲ生産輸出シテ世界市場ニ競争スルコトヲ

アツテ、生糸ハ其ノ最重要ナ場合ヲアリ、製茶、真田、其他雜貨類ニ付テモ亦幾分ノ競爭關係ヲ有スル。世人ハ往々支那カ經濟的ニ覺醒シテ其蠶蠶製糸カ進歩スレハ、能ク我國ニ數倍スルノ大生産ヲ爲シテ我蠶業ヲ壓倒スルニ至ルコトヲ虞レルノテアル。併シ我國ニ於テ生糸カ只一ノ重要ナル輸出品トナツテ、我經濟財政ハ生糸貿易ノ盛衰ニ由リ直接ニ左右セラレルト云ハレタ時代ハ夙ニ過キ去ツタ。勿論今後モ我國ニ於テ蠶業ハ重要ノ地位ヲ失ハヌテアラウガ、我國ハ何時マテモ原料品ト云フヘキ生糸ヲ其儘ニ輸出シテハ居ラレナイ。今後ハ大ニ製織ヲ盛ンニシテ生糸加工品ノ輸出ニ努ムヘキテアツテ、此方面ニ於ケル發達ニハ支那ノ生糸カ重要ノ原料トナルノテアル。又我國カ歐米ニ對シテハ絹布ヨリモ生糸ヲ輸出スルコトヲ主トセ子ハナラヌトシテモ、其生糸ハ支那ニ於テ生産スルコトヲ不能不利トスルカ如キ優良品ト爲スヘキテアツテ、何時マテモ支那糸ト直接ニ競爭スルカ如キ下等品ヲ多ク生産スルコトハ不利テアル。現ニ今日マテ日支兩國カ同種品ヲ生産輸出スル場合ニ付テ見ルニ、兩國ノ生産物ニハ如上ノ品質上ノ差別カアツテ其競爭關係ハ割合ニ弱イノテアルカ、今後モ我國ノ努力ニ由テ競爭ヲ避クルコトハ困難テナイ

次ニ支那カ進歩スレハ次第ニ低級ノ工業品生産カ起ツテ自給自足のトナリ、今日我國カ支那ニ輸出シツアル工業品ノ少ナカラサル部分ハ防遏セラレル。現ニ我產業上及對支貿易上最も重要ナル綿糸紡績ニ付キ、近來支那ニ低級品ノ生産カ盛ントナリ、又摺附木、硝子、其他ノ雜貨ニ付テモ支那ノ生産ハ近時著シク増進シツアル。併シ乍ラ我國ハ企業者技術家勞働者及資本ノ點ヨリ見テ更ニ高級ノ生産ヲ爲ス能力ヲ有スルモノテアツテ、假令ヘ支那印度等ノ後進國ノ競爭カ起ラ

ストモ漸次高級生産ニ進ムノ必要カアリ、何時マテモ僅少ノ工資ヲ得ルニ過キサレバ低級品ノ生産ニ満足シテハ居ラレナイ。故ニ我國ハ低級品生産ニ付テハ一層生活程度低ク且ツ生産能力ノ低キ後進國ニ之ヲ委スヘキテアル。今次ノ歐洲戰爭カ我國ニ與ヘタ最大ノ利益ハ實ニ我工業ニ對シテ高級品ノ生産ヲ練習スルノ機會ヲ與ヘタコトデアツテ、眞面目ニ此機會ヲ利用スレハ我工業ハ著大ナル品位ノ向上ヲ來タスコトガ出來ル。故ニ我工業家ハ決シテ支那印度ニ工業ノ勃興スルコトヲ恐ルルヲ要シナイ。加之我國カ支那ニ投資ヲ行フニ最も適當ナ事業ハ低級品生産ノ工場設立テアル。支那ニ於ケル工場經營ニ付テ我國人ハ支那人ノ自營ニ比シテ優ルト同時ニ歐米人ノ經營ニ比シテ優ツテ居ル。故ニ今後ノ支那投資ニ付テハ特ニ此方面ニ重キヲ置クヘキテアル。支那ニ於ケル工業ノ勃興ニ由リ對支輸出ノ前途ニ不安ヲ感スル我工業ハ支那ニ分工場ヲ姉妹工場ヲ起シテ低級品ノ生産ヲ行ヒ、内地ニ於テハ高級品ノ生産ヲ主トシテ其地位ヲ安固ニスルコトカ特ニ有利テアル。日本人ノ支那ニ於ケル工業投資ハ日支合併ニ由ルト日本人ノ獨力ニ由ルトヲ問ハス、支那ノ經濟ヲ工業化シ現代化スルコトニ付テ大ナル貢獻ヲ爲スコトハ、從來歐洲諸國カ主ニ行フタ所ノ鐵道投資ト同様テアル。

五 支那ノ外資輸入

(上)

一般ノ後進國ト同シク支那モ外資輸入ヲ必要トスル。之ヲ輸入スルニハ政府ノ手ニ由ル公債ト純

然タル私の投資トノ別カアリ、又政府ノ外資輸入ノ目的ニハ財政のノモノト經濟のノモノトカアル。窮乏セル支那ノ財政ヲ支ヘテ國內ノ秩序ヲ保ツ爲メニ財政的借款ヲ起スコトハ已ムヲ得ナイ場合カ少ナクナイ。併シ政治組織カ幼稚テアツテ官界ノ風紀ノ甚シク腐敗セル上ニ、近來無意義ナル黨爭ノ弊カ益甚シクナツテ居ル支那カ、政治借款就中財政彌縫的ノ借款ヲ起スコトニハ多大ノ弊害カ伴フテ居ル。故ニ今後ノ外資輸入ハ主トシテ經濟的ノモノニ制限シ、且ツ之ヲ行フニモ政府政黨ニ關係ナキ純然タル私的投資トスルコトヲ得策トスル。歐米人ハ資本豊富ナルモ支那事情ニ通セス、特ニ支那人ト共ニ投資事業ノ經營ニ與ルコトカ困難テアルカラ、彼等カ支那ニ投資スルニハ租稅收入ノ如キ安全ノ擔保ヲ得テ政治借款ニ應スルカ、又ハ大資本ヲ入用トスルモ仕事ノ性質カ簡單テアツテ機械的ニ行フコトノ出來ル鐵道經營ノ如キ投資ヲ利益トスルノテアルガ、我國民ハ資本ノ多大ナルヲ要セサルモ企業的活動ヲ自カラ行フコトヲ必要トシ、特ニ不斷ノ細微ナル監督ヲ必要トスル所ノ工場經營ノ如キヲ特ニ長所トスル。即チ支那ノ經濟ヲ發達セシムルニ歐米人ハ主ニ金力ヲ以テシ、日本人ハ金力ト人力トヲ以テ支那ヲ助ケルノテアル。

此ノ如ク支那投資ニ付テ歐米ト我國トハ各長短ヲ異ニスルノテアツテ、從來我國ハ外國投資ノ力ヲ全然有タナカツタノテハナク、戰後ニ於テハ歐洲諸國ノ支那投資ハ戰前ノ如ク盛ンニ行ハレ難キニ反シ、我國ハ此戰爭ニ由テ大ニ外國投資ノ實力ヲ増進シタ、併シ我國ハ今後モ尙ホ支那投資ニ付テハ歐米ニ比シテ其能力カ少ナイコトハ爭ハレヌ。故ニ今後モ支那ハ資本ノ供給ニ付テハ大ニ歐米ニ依頼セザハナラヌデアラウガ、此事タルヤ決シテ我國ノ利益ヲ害スルモノテナイ。歐米

ノ支那投資ニ由テ支那自身ハ遠大ノ利益ヲ毀ケラレタ場合カ少ナクナイテアラウガ、我貿易ハ常ニ之ニ由テ大ナル利益ヲ得テ居ル。外資輸入ニ由テ支那ノ購買力カ増加スレハ、其購買力ハ最も多ク日本品ニ向ツテ使用セラレルノテアル。是レマテ支那ニハ再三革命亂カ起リ、又大規模ノ亂民カ蜂起シタコトモアルガ、我國ノ對支輸出ハ歐米ヲ凌イテ常ニ順調ノ増進ヲ爲シタ所以ハ、主トシテ支那カ年々多額ノ外資ヲ輸入シタ爲メテアル。歐米カ支那ニ鐵道ヲ敷設シ港灣ヲ建設スレハ、之ヲ最も多ク利用スルモノハ日本ノ輸出入品ト日本商人トテアル。今後歐米カ支那ノ鐵山ヲ發掘スレハ、其鐵物ハ日本ノ金屬工業ニ由テ最も多ク利用セラレル。歐米カ支那ニ投資シテ其富源ヲ開發スルモ、之ニ由テ產出シタ原料品ヲ隣國ノ日本ニ於テ有利ニ販賣スルコトヲ得ス、罷々之ヲ歐米マテ持歸ルコトヲ必要トスルトキハ、歐米ノ投資モ多ク不引合トナラサルヲ得ナイ。故ニ日本カ歐米ノ支那投資ニ由テ利益ヲ得ルコトハ同時ニ歐米自身ノ利益トナルノテアル。戰爭ノ爲メニ暴騰セル銀相場カ戰後ニハ早晚大下落ヲ爲ステアラウガ、此ノ銀相場下落ニ由ル支那ノ購買力減少ノ爲メニ最も大ナル打撃ヲ受クルモノハ我國デアルカラ、戰後ニ歐米カ支那投資ヲ爲シテ其購買力ヲ増進スルコトハ我國ニ取ツテ必要テアル。尙ホ支那市場ニ勢力ヲ有セシ歐洲先進國カ戰後ニ於テ其生産輸出ノ力ヲ恢復スルコトカ容易テナイトスレハ、今後外資輸入ノ爲メ支那ノ購買力ノ増加スルコトニ由リ、我國カ利益スルコトハ戰前ヨリモ一層大トナル。故ニ吾々ハ今後歐米カ盛ンニ支那ニ投資スルコトヲ歡迎セサルヲ得ナイ。

(下)

歐米カ支那ニ投資スルコトハ支那ニ必要ナルト同時ニ我國ニモ必要ナルガ、從來往々ニ見ルカ如ク投資ニ伴フテ大ナル特權ヲ獲得スルコトニハ絶對ニ反對セサルヲ得ナイ。或國カ支那ニ鐵道ヲ敷設シテ附近ノ廣大ナル區域ヲ自己ノ勢力範圍トシ、此區域内ニハ他國人ノ投資起業ヲ許ルサスト云フカ如キ、或ハ一ノ鑛山ヲ發掘シテ其附近ニ他國人ノ鑛業ヲ許ルサスト云フカ如ク、一種ノ勢力範圍ヲ作ルコトハ支那ノ國權ヲ割取スルモノテアリ、經濟手段ニ由リテ或程度ノ支那分割ヲ實行スルモノテアル。支那保全ヲ我國是トスル以上ハ、此ノ如キ特權獲得ノ投資ヲ否認セサルヲ得ナイ。經濟上ヨリ云フモ此ノ如キ特權ヲ伴ヘル投資ハ支那ノ富源ヲ開發スル所以テナクテ之ヲ閉鎖スル所以テアル。支那ノ富源開發ハ須ラク列國ノ自由競争ニ由テ之ヲ促進セザハナラス。固ヨリ我國カ歐米ノ特權獲得ニ反對スル上ハ、我國自身モ亦同様ノ特權獲得ニ斷念セザハナラス。我國カ之ヲ斷念セサル限リハ歐米ニモ之ヲ禁スルヲ得ナイノテアルガ、資本ノ乏シキ我國カ投資ニ由ル特權獲得ノ競争ニ付テハ歐米ヨリモ不利ノ地位ニ立タチハナラス。又假令ヘ此競争ニ付テ我國カ優勢トナル場合カアツテモ、尙ホ我國ハ支那保全ノ國是ヨリシテ自カラ差控ヘチハナラス。兵力ニ由ル支那分割ニ付テ假リニ我國カ最モ有利ノ區域ヲ割取シ得ルモ、尙我國ハ其分割ニ反對シテ保全ヲ主張スルノ必要ナルコトハ前ニ述ヘタガ、此事ハ投資ト云フ經濟手段ニ由ル支那分割ノ場合ニモ全ク同様テアル。而シテ兵力ニ由ルト投資ニ由ルトヲ問ハス、之ニ由テ支那ヲ分割スルコトニ反對スル上ハ、支那ノ政治借款特ニ租稅收入ヲ擔保トスルカ如キ方法ニ由リ支那ノ國權ニ干渉スルカ如キ借款ニ付テモ、成ルヘク列國ノ公平ナル共同參加ヲ認メルコトカ必要テアル。

又鐵道ノ如ク競争企業ヲ禁セサレハ事業ノ成立シ難キモノニ付テハ、之ヲ支那ノ國有トシテ列國共同ノ借款トスルコトヲ必要トスル。固ヨリ列國ノ共同トスルトキハ、列國カ互ニ牽制スルカ爲メ借款カ涉々シク起サレナイコトトナルテアラウガ、本來支那ノ借款ハ貨幣制度ノ確立トカ、財政制度ノ根本的改造トカ、有利ナル鐵道ノ敷設ノ如キ場合ヲ別トシ、從來ノ如ク年々ノ財政ノ彌縫ヤ政爭ノ手段トシテ借款ヲ起スコトハ支那ヲ衰亡ニ誘キ、延ヒテ日本ノ存立ヲ危フスルモノテアルカラ、列國ノ牽制ニ由テ妄リニ之ヲ起シ得サルコトナルノハ大ニ喜フヘキテアル

資本ニ餘裕アル列國カ支那分割ノ爲メニ慣用スル特權付キノ投資ニ對シテ、我國カ自カラ之ヲ斷念スルト同時ニ歐米ニモ之ヲ禁シ、支那保全ノ爲メニ有害ナル事柄ハ他國ヲシテ行ハシメサルト同時ニ日本モ亦之ヲ斷念スルト云フ公明ノ意思ヲ毅然トシテ内外ニ表明スルトキハ、茲ニ初メテ支那人モ吾々ノ日常口ニスル所ノ支那保全主義ノ眞意ヲ了解シテ其排日思想カ自然ニ消滅スルノミナラス、列國モ亦我國ニ大陸侵略ノ野心ナキコトヲ認メ、其結果東洋ニ於ケル列國ノ競争ハ全ク平和的トナリ、又結局東洋ノ處置ニ付テハ支那モ列國モ安ンシテ我國ノ斡旋ヲ待ツコトナルテアラウ。從來ノ如ク支那ニ於テ列國ノ特權獲得ヲ認ムルトキハ、自然ニ列國ノ競争ハ險惡ノ性質ヲ帶ヒ、從ツテ又列國ハ過大ノ勢力ヲ東亞ノ競争ニ傾注スルコトナリ、之カ爲メ支那モ日本モ常ニ大ナル壓迫ヲ蒙ムラサルヲ得ナイ。支那ハ須ラク之ヲ眞正ナル自由競争ノ別天地トセネハナラヌ。斯クスレハ實力ノ漸次増進シツツアル我國カ最モ大ナル勝利ヲ得ルコトナルカ、而モ其勝利タルヤ純然タル平和的ノモノテアツテ、之カ爲メ支那モ列國モ不安ヲ感スルノ必要ハナ

イ。我國カ卒先此主義ヲ主張實行スルコトハ、世ノ諺ニ云フ如ク大慾ハ無慾ニ似タリテアツテ、是ソ眞ニ大國民タルノ識見度量ヨリ割り出シタ大策ト云ハチハナラヌ

從來我國民ハ大陸發展ニ付テ常ニ國家ノ力ニ依賴シ、國權ヲ笠ニ着テ活動セントシタ。是レ一ハ日本人カ事巧ヲ急イテ遠大ノ志望ヲ缺クノ弊アル爲メテモアルガ、一ハ又實際ニ國民ノ實力カ海外發展ヲ爲スノ餘裕ヲ缺イタ爲メテアル。然ルニ近來我國ノ實力ハ次第ニ充實シテ最早ヤ狹小ナル國內事業界ノ發展ヲ以テ満足スルヲ得サル勢トナリ、特ニ此大戰争ニ由テ先進國ノ競争壓迫ノ大ニ衰ヘタト同時ニ、我國ノ實力ノ俄カニ増進シタ今日ニ在テハ、支那ノ門戸ヲ開放シテ之ヲ自由競争ノ天地トスヘキテアル。支那ニ自由競争カ行ハルレハ、商業上我國ハ原料ノ購買利用ニ付テモ製品ノ販賣ニ付テモ列國ニ對シテ優勢トナルコトカ確實テアル。只タ投資ニ付テハ今後モ我國ハ歐米ニ比シテ幾分カ劣ルコトヲ免レナイテアラウ。故ニ今後列國ノ支那投資ヲ成ルヘク純然タル經濟的ノモノタラシメ、之ヲ以テ特權獲得ノ手段トスルコトヲ否認セネハナラヌ。歐米ノ投資ニ由テ最モ多ク利益スルモノハ我國テアル故、其投資ニシテ支那保全ヲ毀ケサルモノハ我國カ大ニ之ヲ歡迎セネハナラヌ。斯ノ如ク我國カ支那ニ對シテ徹底的ニ門戸開放機會均等ノ實行ニ努カスルトキハ、之ニ由テ日々險惡ニ赴キツツアル日支關係ヲ根本的ニ解決シ、延ヒテ東洋南洋一般ニ勃興セントシツツアル排日又ハ恐日思想ヲ消滅セシメ、一面ニハ歐米ノ我國ニ對スル猜疑嫉妬ヲ一掃シ、特ニ今後支那問題ニ付テ激烈ナル衝突ヲ生セントシツツアル米國トノ關係ヲ融和シ、却ツテ支那ノ門戸開放機會均等主義ニ付キ日米ノ間ニ深厚ナル一致ヲ來タスノテアル。記憶

セヨ、今日マテ支那ニ於テ投資ニ由リ最大ノ勢力ヲ張レルモノハ日本ヲモナク米國デモナイ。支那ノ富源ノ焦點ハ何ト云ツテモ楊子江流域テアツテ、他ノ地域ハ之ニ比スレハ頗フル貧弱ナモノナル。楊子江流域カ純然タル自由競争ノ地トナラサル間ハ、支那ノ富源ハ未タ我國ニ向ツテ完全ニ開放セラレタトハ云ハレナイノテアルガ、此廣大ナル區域ニ對シテ優越權ヲ主張スルモノハ實ニ英國テアル。從來ノ如ク我國カ支那及列國ノ眼前ニ大陸侵略者トシテ映スル間ハ有ユル不利不便ヲ蒙ムルニ反シ、我國カ支那保全ト云フ正義ノ保護者トナツタ時初メテ完全ニ利益ヲ收メ得ルノテアル。予輩ハ茲ニ重ネテ大慾ハ無慾ニ似タルコトヲ世人ニ注意セサルヲ得ナイ

六 支那保全ト我國民道德

(上)

支那保全ヲ以テ我國是トスルニ付キ尙ホ一問題カ殘ツテ居ル。其ハ支那ヲ保全シテ其進歩ヲ助クルトキハ、多年一日支那カ強大ナル侵略國トナツテ我國ノ存立ヲ危フスルコトナキヤノ問題デアル。曾テ支那ヲ以テ睡レル獅子トスルノ見解ハ日清戦争ニ由テ破ラレタト稱ヘラレルガ、實ハ日清戦争ヲ待ツマテモナク、古來ノ歴史ハ支那カ決シテ侵略國民テナク、世界ニ於テ最モ平和ノ民族デアルコトヲ證明スル。東洋ノ二大民族タル支那人ト印度人トハ獨リ侵略國民タルノ歴史ヲ有セサルノミナラス、白人諸國ヤ我國ノ如キ緊密ノ統一ヲ保ツ所ノ國家組織ヲモ有ツタコトカナイ。支那ハ今日マテ吾々カ採ル所ノ意味ニ於ケル國家ト云フヨリモ、寧ロ大ナル民族の社會ト云フコ

トヲ適當トスル。今後支那カ世界の交通生活ニ參加スルコトニ由テ、漸次有機的ノ國家組織ヲ探ルニ至ルコトハ考ヘラレナイテハナイガ、併シ之カ爲メニ侵略國民トナルトハ考ヘラレナイ。支那人ハ今モ昔ト同シク根本ニ於テ文ヲ貴ヒ武ヲ賤メル民族テアル。而シテ古來列國ノ國是ナルモノハ常ニ其隣國カ侵略の國民テアルコトヲ前提トシテ定メラレタモノテアルガ、此間ニ於テ獨リ我國カ無二ノ平和民族タル支那ヲ隣國トシテ有ツコトハ實ニ幸福ト云ハネハナラス。隣國トシテノ支那ハ實ニ理想的ノ隣國テアル

支那ハ此ノ如ク靜的平和の民族テアルニ反シ、世界ノ大部分ヲ占領スル白人諸國ハ動的侵略的テアル。故ニ支那カ其間ニ立テ自力ニ由リ獨立スルコトハ全ク不能テアルガ、而モ支那カ獨立ヲ保ツコトハ即チ我國ノ獨立ヲ保ツ所以テアル。我國ノ地位ハ動的ナル白人諸國ト靜的ナル支那トノ中間ニ介立シ、又我國民ハ靜動兩面ノ能力ヲ併セ有スル者テアル。故ニ我國ノ武力ハ東亞ニ於ケル此ノ理想的の平和境界ヲ白人ノ侵略ニ對シテ擁護スルコト云フ嚴肅ナル使命ヲ荷フモノトナラナラス。若シ過ツテ我武力ヲ此平和境界ノ攪亂破壞ノ爲メニ濫用スルナラハ、我國ハ自滅ノ運命ニ陥ラナラナラス。吾々ハ一部ノ平和論者ノ如ク我軍備就中陸軍ヲ大ニ縮小スヘシト主張スルコトニ反對スル者テアルガ、同時ニ多クノ尙武論者ノ如ク之ニ大陸侵略ノ意味ヲ附スルコトニハ絕對ニ反對セサルヲ得ナイ。新ナル倫理思想ノ發達シツツアル今日ニ於テ、軍備ニ對シ如上ノ貴ク嚴カナル使命ヲ荷ハシムルニアラサレハ、到底國民ノ尙武ノ氣象ト倫理思想トノ調和ヲ保ツコトカ出來ナイ。世間ニハ社會ノ進歩ニ伴フテ尙武ノ氣象ノ衰退スルコトヲ憂フル者モ少ナクナイガ、若

シモ軍備ニ如上ノ高尙ナル使命ヲ荷ハシムルナラハ、古來我國民ニ特ナル尙武ノ氣象ヲ盛ナラシメテ國家ノ存立ヲ安固ナラシムルト同時ニ、新時代ニ必要ナル健全ノ倫理思想ノ發達ヲ見ルコトカ出來ル。戰前ニ獨逸ノ進ミツツアツタ途モ英佛ノ進ミツツアツタ途モ共ニ中正ヲ得タモノテナカッタ。特ニ狹偏ナル利己的國家主義ノ表面ニ漲リツツアツタ獨逸ノ思想界ニハ頑強ナル社會主義的暗流カ蔓リツツアツタ。今後ノ我國ハ眞正ノ支部保全ナル高尙ノ理想ヲ掲ケテ國民ヲ導キ勵マサチハナラス。力ノ自覺ヲ生シテ而モ理想ニ飢ヘントシツツアル我國民ニ對シ、此ノ嚴カナル使命ヲ糧トシテ與ヘルコトハ國民ノ教養訓練ニ必要テアル

我國カ此ノ如ク徹底的ノ支部保全主義ヲ探ルトキハ、如何ニ我軍備力充實シテモ支那ハ何等ノ不安ヲ感セス、寧ロ我軍備ノ強大ナルコトノ必要ヲ感シ、一面ニハ世界列國モ亦猜疑嫉妬ノ念ヲ起サナイ。戰前ノ露國ノ如ク戰後ニハ米國カ我國ヲ脅カスノ形勢ヲ示シツツアルカ、日米間ノ衝突ノ中心トナレル問題ハ、理論上ハ兎モ角、事實ニ於テハ最早ヤ移民問題ヲナクテ支那問題テアル。故ニ我國カ眞正ノ支部保全主義ヲ探レハ米國トノ關係ヲ改善シ、寧ロ之ト一致提携スルノ機會ヲ見出シ得ルノテアル。從來我國ニ於テ一般ニ唱ヘラレタ日支親善論又ハ支那保全論ナルモノハ、多クハ爲メニスル所アルモノテアツタカラ、之ニ由テ世道人心ヲ誘クノ力ナク、又支那及列國ノ信用ヲ博スルコトモ出來ナカッタ。又東洋もんろー主義ナルモノモ多クハ彼ノ墮落セル米國ノもんろー主義ニ近カキモノテアツテ、之ニ由リ列國ノ反抗ヲ招クハ勿論、支那人モ我國人ノ口ヨリ東洋もんろー主義ナル詞ヲ耳ニスルコトヲ欲シナカッタ。彼ノ貿易上支那ノ利益ヲ我國ニ獨

占セントスル所ノ日支關稅同盟論ノ如キハ、武力的併吞ニ次クノ侵略論テアツテ到底實行ノ望ナク、徒ラニ支那ノ排日思想ヲ高メ且ツ列國ノ嫉妬ヲ招クニ過キナカツタ。吾々ノ主張スル支那保全主義ハ獨リ列國ノ東亞侵略ヲ排スルノミナラス、我國ノ東亞獨占ヲモ排シ、眞ニ支那ノ門戸ヲ開放シテ萬人ニ均等ノ機會ヲ與ヘントスルノテアル。我國カ此ノ如ク形式的ノ支那獨占ヲ斷念スルコトハ實際ニ於テ支那ノ有形利益ノ大部分ヲ獨占スル結果トナルノミナラス、支那人ヲ初メ一般ニ東洋南洋民族ノ人心ヲ獨占スルノ結果トナル。東方ノ王者タラントスレハ物ヲ得ルヨリモ心ヲ得ルコトカ遙カニ肝要テアル

(下)

國民ノ對外思想ト對內思想トハ、其間ニ著シク相違スル點モナイテハナイガ、共ニ同一ノ源泉ヨリ流れ出タモノテアツテ、又双方互ニ因果的ノ影響ヲ及ホスモノテアル。故ニ吾々ハ支那問題ヲ以テ單ニ之ヲ對外問題トセス、同時ニ內政問題トシテモ重大ノ意義ヲ認メテハナラス。我國民ハ由來外國ニ對シテ特ニ銳敏ナル感受性ヲ有シ、曾テ基礎的法制ヲ作ルニ方ツテモ之ニ由リ條約改正ヲ行フテ歐米ト對等ノ交際ヲ爲スコトヲ、其目的ノ重要部分トシタホドテアリ、更ニ週ツテハ明治維新ノ大革新ノ如キモ半ハ以上ハ對外策トシテ斷行セラレタノテアル。故ニ今日普テ國民ノ頭ヲ腦マス所ノ支那問題ニ付テ健全ナル大方針ヲ立テルコトハ、一面ニ健全ナル對內政策ノ發達ヲ促カス上ニ重大ノ關係カアル。此事ハ既ニ上ニ述ヘ來ツタ所ニ由ルモ明カデアラウガ、更ニ少シク卑見ヲ述ヘテ世ノ注意ヲ促カシタイ。第一ニ吾々ハ國內ニ於テ人格尊重ノ思想ヲ發達セシ

ムルノ急務ナルカ如ク、支那ノ獨立ノ存在ヲ認メル上ハ獨立者ニ相當スル所ノ尊敬ヲ拂ハチハナ
ラヌ。支那ノ政治經濟風俗等ニハ改善ヲ要スヘキモノカ多ク、其改善ニ向フテ吾々カ大ニ努力ス
ルコトハ必要アルガ、併シ從來我國ノ輿論ハ支那ニ對シ獨立者トシテ之ヲ尊敬スルノ念カ甚タ
乏シイ。支那ノ事物ト云ヘハ一概ニ之ヲ劣等視シテ無遠慮ナ批評ヲ加ヘ、又些細ナル内事ニマテ
干涉シテ之ヲ自己ノ意思ニ服從セシメントスル。我國民カ支那ニ對シテ此ノ如キ態度ヲ探ルトキ
ハ、假令ヘ其事カ支那ヲ親愛スル純潔ナ動機ヨリ出タモノトシテモ、支那ハ甚タ不快ヲ感セサル
ヲ得ナイ。否ナ日本人ニ支那ヲ尊敬スルノ念カ起ラサル限リハ、日本人カ親愛ヲ盡サントスレハ
スル程支那ハ益日本人ヲ嫌惡スル。況ンヤ從來ノ對支行動ノ動機ハ多クノ場合ニハ決シテ此ノ如
ク純潔ナラサルニ於テオヤテアル。第二ニ我國民ハ從來強國ノ勢力ニ壓迫セラレテ自衛ニ汲々タ
リシ爲メ、一般ニ外國ニ對シテ温カキ同情ヲ注クノ美德ニ乏シカツタガ、弱者タル支那ニ取ツテ
特ニ必要トスル所ノ深厚ナル同情ヲ缺イテ居タ。獨立民族トシテノ支那ニハ特有ノ要求カアル。

我國カ其要求ノ正當ナルヤ否ヤヲ判斷スルニハ大ナル同情ヲ以テセネハナラヌ。即チ我國民カ假
リニ自カラ支那人ノ地位ニ立ツテ其要求ヲ吟味シ、以テ成ルヘク之ヲ我國ノ正當ノ利益ト調和セ
シムルコトニ努力セネハナラヌ。我國民ハ古來義俠ヲ以テ誇リトスルニ係ハラス、弱キ隣國ニ對
シテ甚タ驕慢テアツタ。利己的國家主義ニ走ツテ今日ノ如キ不幸ヲ招ク所ノ獨逸デサヘモ、弱キ隣
國即チ中歐及「バルカン」ノ諸小邦ニ對シテハ常ニ充分ノ尊敬ヲ拂ヒ、大慾ハ無慾ニ似タリノ態度
ヲ探ルコトヲ忘レナカツタ故、假令ヘ此戰爭ニ敗レテモ無援孤立トナルコトナク、依然トシテ中歐

ノ盟主タル地位ヲ保ツノ見込カアルノテアル

我國民カ此ノ如ク支那ニ對シ甚シク同情ト尊敬ヲ缺クノ態度ヲ探ツテ自ラ之ヲ耻チス、却ツテ大ニ國威ヲ張リ國益ヲ進メタリトシテ得々タルトキハ、自然國內ニ於テモ人格尊重ノ思想ヤ強者階級ノ弱者ニ對スル同情ノ發達カ妨ケラレ、從ツテ又憲政ノ進歩モ民本主義ノ發達モ妨ケラレサルヲ得ナイ。資本家カ勞動者ニ對シ、老人カ青年ニ對シ、男子カ女子ニ對シテノ同情ヤ理解モ困難トナラネハナラヌ、今日ノ如ク支那ノ獨立ヲ尊重セス、些細ノ事柄マテモ之ヲ我意ニ從ハシメントスルノ方針ヲ徹底的ニ實行セントスレハ、第一ニ兵力ヲ以テ併吞シテ之ヲ屬領トシ、第二ニ之ヲ統治スルニモ偉大ナル軍隊ト警察トヲ組織シテ強壓專制セネハナラヌ。勿論此ノ如キ事柄ハ實行シ得ヘキテハナイカ、假リニ之ヲ可能ナリトスルモ、之カ爲メ我國力ノ殆ント全部ヲ費シテ尙ホ不足ヲ感スルテアラウ。即チ我政治ノ殆ント全部カ武斷的專制的トナラネハナラヌ。又我國ノ內政上早晚朝鮮及臺灣ノ統治カ難問題トナツテ現ハレルコトヲ豫期セネハナラヌノテアルガ、今日ノ如ク我國民ノ異民族ニ對スル思想カ利己偏狹テアツテハ、此問題ヲ解決スルコトモ至難ノ業トナリ、英國ノ愛蘭問題ヤ獨逸ノ波蘭問題以上ニ國家ノ不安不統一ヲ來タスノ危險カアル。而シテ我國カ一般ニ東洋南洋ノ諸民族ノ間ニ人心ヲ失ヘハ失フ程、我國民ハ益絶望的ノ侵略主義ニ走ツテ自滅ノ危機ニ近ツキ、之ト同時ニ內政ハ益武斷的官僚的トナラサルヲ得ナイ

予輩ハ上ニ屢我國民ノ支那ニ對スル同情カ足ラナイト云ツタガ、併シ我國民ニシテ民族的文化的ノ自覺ヲ失ハサル限りハ、同種同文トモ云フヘキ支那ニ對シテ根本的ノ同情ヲ失フコトハ出來ナ

イ。白人カ支那ニ同情ヲ寄セルト云フモ其實眞ニ支那ノ種族ト文化トヲ理解シテ之ニ共鳴スルコトハ不能テアツテ、多クノ場合ニ其友情ナルモノハ頗フル皮相的テ又巧利的テアルニ反シ、我國民ノ支那ニ對スル同情ハ自尊自重ヨリ流れ出ツル自然的ノモノテアリ得ル。又國家存立ノ上ヨリ見ルモ我國ハ支那ノ保全ヲ以テ自己ノ存立條件トスルニ反シ、他ノ國民ハ支部ノ保全ヲ欲スルコトカアツテモ之ヲ以テ一時ノ便宜トスルニ過キナイ。此ノ如ク密切不離ノ關係アル兩國民ノ感情カ今日ノ如ク疎隔スルニ至ツタ所以ハ、公平ニ批評シテ兩國民トモニ過ツタ爲メテアル。特ニ双方ニ過失ノアツタコトカ、兩國ノ親和ニ付テ猜疑ヲ禁シ得サル列國ニ乘スヘキ機會ヲ與ヘテ遂ニ今日ノ如キ困難ヲ生スルニ至ツタノテアル。今日兩國民ハ何レノ方ニ大ナル責任アリヤヲ穿鑿スルノ違ハナイ。各自其過ヲ改ムルニ最善ヲ盡サチハナラス。只タ我國民ハ支那ニ對シテ一日ノ長ヲ有スル丈ケニ一層多ク自ラ責メ改メネハナラヌト信スル。

七 滿蒙問題

我國カ支那ノ貿易及投資起業ニ付キ特權獲得ノ手段ニ由リ利益ヲ獨占スルコトヲ白カラ斷念スルト同時ニ、列國ヲシテ之ヲ斷念セシメ、眞ニ門戶開放機會均等ノ大義ヲ主張スルモ、尙ホ滿蒙ニ對スル我國ノ態度ヲ公明ニスルニアラサレハ、支那及列國ヲシテ我國ノ支那保全ノ眞意ヲ徹底の了解セシメルコトカ困難テアル。今日我國カ滿蒙ニ對シテ特種ノ優越權ヲ主張スルコトガ、一ハ我領土朝鮮ノ防備ニ必要テアリ、一ハ露國ノ南下ニ對シテ自衛スルノ力ナキ支那ヲ保全スルカ

爲メニ必要テアルコトハ恐ラク異論ノナイ所テアラウ。只タ今日ノ有様ニテハ我國自身カ滿蒙ヲ足場トシテ支那侵略ヲ企ツルコトナキヤニ付キ、支那及列國ヲシテ安心セシメルコトカ出來ナイ。之ヲ以テ或ハ支那ニ對シ大ナル利害ヲ有スル列國ト條約シテ今日ヨリ直チニ滿蒙ヲ中立地帶トスヘシトノ論モアル。併シ乍ラ或地域ヲシテ眞ノ中立タラシメントスレハ、關係列國カ其地域ノ不可侵的ナルコトヲ以テ自國ノ存立ニ必要トスルカ如ク之ニ痛切ナル利害ヲ感シ、從ツテ一旦ヒ其地域カ何レノ國カニ由テ侵略セラルルトキハ、各國進ンテ其全力ヲ盡シテ之カ防禦ニ當ルコトノ當然ニ期待シ得ヘキ場合テナクテハナラス。然ルニ今ヤ滿蒙ヲ中立トスルモ、一旦ヒ此地域カ侵略セラレタ場合ニハ何レノ國モ全力ヲ提ケテ之ヲ防禦セントスルモノナク、其苦痛ヲ負擔スルモノハ獨リ我國ノミテアル。而モ今日之ヲ中立トスレハ、我國カ此地域内ニ於テ防備上必要ノ施設ヲ爲スノ自由ヲ束縛セラレ、其結果滿蒙ハ容易ニ侵略シ得ヘキ土地トナツテ直接ニ我朝鮮カ脅カサルルノミナラス、遂ニ支那分割ノ端ヲ開クコトトナルテアラウ。是レ支那保全ノ上ヨリ見テ今日直チニ滿蒙ヲ中立トスルヲ得サル所以テアル

支那保全ヲ以テ自國ノ存立條件トシ、從ツテ其保全ヲ以テ自國ノ權利ナリト主張シ得ルモノハ我國ノ外ニハナイノテアルガ、支那保全ト朝鮮ノ安固ノ爲メニ必要トスル所ノ滿蒙ノ防備カ、實際ニハ獨リ我國ノ負擔トナル上ハ、經濟上ニモ我國カ或程度ノ優越權ヲ占ムルコトヲ不公平ト云フヲ得マイ。特ニ此方面ノ鐵道ヤ鑛山ノ如ク防備施設ニ重大ノ關係ヲ有スル事業ニ付テハ、防備ノ責任ヲ有スル我國カ支配權ヲ握ルコトヲ必要トスル。只タ我國カ滿蒙ニ對シテ優越權ヲ主張セサル

ヲ得サル根原ハ、其防備ヲ負擔スルノ責任アルカ爲メテアツテ、敢テ經濟上ノ利益ヲ獨占セシカ爲メテナイカラ、其防備ニ關係ナキ事業ニ付テハ強テ防備ノ報酬トシテ優越權ヲ主張スルノ必要ハナイ。宜シク之ヲ列國ノ投資ノ爲メニ開放スヘキテアル。特ニ我國ト合辦ニテ投資セントスル國アレハ、我國ハ大ニ之ヲ歡迎シ、成ルヘク列國ヲシテ多大ノ資本ヲ滿蒙ニ投下セシメ、以テ滿蒙ノ安固不可侵ニ付キ重大ノ利害ヲ感セシムルコトヲ必要トスル。若シ數多ノ強國カ滿蒙投資ニ由テ其不可侵ニ付キ重大ノ利害ヲ感スルニ至レハ、事實ニ於テ滿蒙ハ中立トナルノテアツテ、之カ防備ハ必シモ獨リ我國カ負擔スルヲ要セサルコトトナルテアラウ。若シ幸ニシテ滿蒙カ此ノ如ク中立タルノ實價ヲ備フルニ至レハ、我國ハ形式上ニモ之ヲ中立トスルコトニ躊躇スルノ必要ハナク、又此場合ニ南滿鐵道ノ如キハ之ヲ關係諸國ノ合辦トスルヲ辭スヘキテナイ。只タ滿蒙ノ土地ハ頗フル貧弱テアツテ列國ノ投資ヲ之ニ誘フコトカ容易テナイガ、併シ米作及小麥作ヲ發達セシムルニ必要ナル土地改良事業就中水利事業、沿海ニ於ケル製鹽業及之ニ伴フ所ノ化學工業、大豆原料トシ又ハ撫順炭ヲ利用スル所ノ各種ノ工業ハ前途有望ナモノテアツテ相當ノ外國投資ヲ誘フノ力カアル。而シテ我國カ滿蒙ニ對シ此ノ如キ開放的態度ヲ採ル上ハ、支那保全ヲ標榜スル他ノ列國モ亦支那本土ニ於ケル既得ノ優越權ヲ抛ツテ機會均等主義ヲ實行スルノ公平ナルヲ拒ムコトヲ得マイ。前ニ述ヘシ如ク支那本土就中楊子江流域ニ於テ眞ニ機會均等主義カ行ハレナクテハ我國ハ完全ニ支那ヨリ經濟上ノ利益ヲ得ルコトハ出來ナイ(完)